

令和元年 11 月 25 日

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」
第 38 回（通算第 117 回）定例会 会議録

日 時：令和元年 11 月 19 日（火） PM7：10～8：45
場 所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室
出席者： 41 名

別紙のとおり

1. 「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：10～20：45】

- | | |
|-------------|---|
| 19：10～ | 開 会 |
| 19：10～19：15 | 情報提供 ・“119”のかけ方 ・NPO 法人なごみ 20 周年イベントの紹介 |
| 19：15～20：00 | 問題提起 和歌山県における活動の現状と今後 「認知症支援者（あなた）にとって家族は当事者か否か」 ～本人支援と家族支援に対するギャップ～ 講師：公益社団法人認知症の人と家族の会 和歌山支部代表 梅本 靖子 氏 |
| 20：00～20：45 | 意見交換と発表、講師コメント |
| 20：45 | 閉 会 |

【研修内容】

講義内容

- ・家族の会の活動三本柱 電話相談 つどい 会報の発行
- ・「和歌山県全域に認知症支援の輪を広げる」一緒に考え、一緒に活動してください！
和歌山県作業療法士会＋認知症の人と家族の会和歌山県支部で連携をスタート
- ・本人支援と家族支援は分けるべきか？ 家族の会は“家族の当事者”と、考えている
- ・家族支援の必要性
当事者と家族の希望が対立関係になる場合は少なくない
家族も本人との関係性について悩んでいる
本人だけでなく、家族も自分らしく生きる権利がある

- ・支援者のつながりが大切な理由
支援のはざままで理想と現実のギャップに悩む、そういう立場に常に立たされるのが支援者一人です。ケースを抱え込み、相談できず悩む支援者もたくさん。だからこそ支援者の交流や意見交換が必要
- ・本人支援、家族支援のために必要な連携
本人・家族・専門職、それぞれのしんどさを軽くすることによって、よりクオリティの高い支援ができる
同じ思いをもつ団体同士が結びつき、抜け漏れがない、取りこぼしがない支援を行うことが必要。その連携を進めていくことが重要なこと

【意見】

認知症ケアについて思うこと・家族は当事者か？

認知症についての周知

- ・認知症の人の対象の把握ができていない現実もある
- ・認知症であることを隠そうとする家族
地域への啓発の充実
- ・家族の集まる場や認知症カフェ、相談窓口などの周知・広報をしていかないといけない
- ・メイトの活動や家族が集まる場づくりが必要。メイトが増えると在宅介護も充実するのでは。
- ・子供への教育も必要では
- ・家族の会の存在を知らないひともある。でも近所に気軽に話し合える場所があれば、家族会はなくてもいいのかもと思う。
- ・認知症は誰もがなることを啓発していくことが大切
- ・認知症の相談からスタートするのではなく、ふだんから広く知っておいてもらうことが大切

集まる場づくり

- ・デイが認知症カフェの役割も
- ・認知症の当事者が認知症カフェの運営に参画することも重要。そのPRを。

地域や支援者

- ・本人と家族の意向のズレ（ギャップ）のすり合わせが重要。ケアマネも事業所のスタッフも思いは一緒。
- ・認知症に限らず在宅介護が不十分だと感じる。当地域は財政的に厳しいからサービスが少ない。
- ・ピアカウンセリングも重要
- ・徘徊する人のサポートができる地域であってほしい。
地域の希薄化や個人情報の問題から地域でお互いに知らないのでは体制が整えにくい
- ・そもそも家族の中で認知症についての話し合いができていないように思う
- ・支援の輪をどう広げるか。医療系の学校・デイの家族が集まる場・施設の広報誌・研修の場面
- ・もっと認知症サポーターが増えてほしい
- ・若年性認知症の人のサービスが少ないので、コーディネーターの役割大。しっかり活用を！
- ・家族へも当事者としての支援が必要だと思う

認知症であることを気軽に言い合える和歌山に！

【次回の定例会】

以下の日程で実施する。

日時：令和元年 12 月 17 日（火） 午後 7 時～

場所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室

内容：講義「居住支援法人について」

講師：やおき福祉会 西脇氏